

## 第8節 寺泊地域

### <地域の将来像>

## 海の観光と暮らしが共存する ふれあいのまち

### 地域の概要

- ・寺泊地域は、本市で唯一海岸線を有し、大河津分水路からの土砂堆積により形成された海岸部と、その背後に広がる丘陵地・水田地帯からなる地域です。
- ・JR寺泊駅周辺には、大河津工業団地が整備され、職住が近接した市街地が形成されています。また、大河津地区の国道116号沿道には、商業施設が立地し、地域の日常的な買物需要を支えています。
- ・海岸部の寺泊、野積地区は、古くは北前船の寄港地として、また、北国街道の宿場町として栄え、現在は、「魚の市場通り」や海水浴場でにぎわう観光産業の拠点となっています。



観光客でにぎわう魚の市場通り

### ○地域に関するデータ

- ・総面積 58.2km<sup>2</sup> (6.5%)
- ・総人口 11,636人 (4.0%)
- ・世帯数 3,162世帯 (3.3%)
- ・年少人口比率 12.7%
- ・高齢人口比率 28.7%

(出典) 平成17年国勢調査

※カッコ内は市全体に占める割合

## 2 現状と課題

### ○観光基盤づくりの課題

- ・日本海に面した寺泊地域は、観光産業が定着し、年間約268万人の観光客が訪れています。加えて、佐渡との交流を促進し、さらなる地域の活性化を図るため、既存の観光関連施設の活用や再整備を検討し、観光振興につなげていく必要があります。

### ○地域産業の活性化に向けた課題

- ・寺泊地域では、年々人口が減少してきており、とりわけ若年層の人口流出が顕著です。地域における雇用の場を創出し、定住人口の確保につなげるため、都市整備の面からも地域産業の活性化を支援する必要があります。

### ○環境保全と土地利用の課題

- ・良好な住環境を確保しながら、地域産業の振興を図るため、幹線道路の沿道開発などについては、今後、適切な開発誘導が必要です。

- ・海岸部の寺泊地区や野積地区では、港町らしい街なみが広がる一方、住宅が密集して立地し、道路幅員も狭い箇所があります。
- ・海岸部では、人口減少や転居に伴って、空き家や空き地が発生し、市街地の空洞化や地域の防犯対策に課題が生じています。

#### ○道路・交通ネットワークの課題

- ・寺泊地域と長岡地域を結ぶ国・県道は、住民の通勤・通学などの日常生活はもとより、広域観光を支える重要な路線であることから、道路幅員の拡幅や歩道整備など、さらなる道路機能の強化が必要です。
- ・「魚の市場通り」周辺では、土曜・日曜日や祝日をはじめ、観光シーズンの期間中において交通混雑が発生しています。
- ・海岸部の幹線道路や幅員の狭い生活道路では、歩行者の安全性を確保する歩道の整備や交通安全施設の設置が必要です。
- ・寺泊地域には、鉄道と路線バスが運行しています。これらの公共交通は、通勤・通学はもとより、日常生活を支える重要な移動手段であることから、今後とも維持・充実を図る必要があります。また、地域の一部には、公共交通の空白地域が見られることから、このような地域での対応が必要です。

#### ○生活環境の課題

- ・寺泊地域は、起伏のある地形や集落が点在する地理的条件などの制約に加え、他の地域に比べて、合併以前から下水道の普及率が低い状況にあることから、公共下水道などの整備をさらに進める必要があります。
- ・新島崎川沿いや市街地の低地部では、近年の集中豪雨時の際に、浸水被害が発生しています。また、大河津分水路の堤防護岸の強化が必要です。

## 3 地域づくりの方針

#### ○観光振興に向けた基盤整備

- ・「魚の市場通り」や「寺泊海浜公園」など、既存の観光拠点においては、駐車場の整備、来客者への案内誘導及び施設の更新などを通じて、「海の寺泊」ブランドの推進に向けた機能強化を図ります。
- ・豊富な地域資源や国有地を活かしながら、寺泊港を核に佐渡や他地域と一体となった広域観光拠点の形成に向けて、さらなる基盤整備を検討します。
- ・地場産品の直接販売や観光情報の発信など、住民が主体となって取組むさまざまな地域資源を活かしたまちづくりを、都市整備の面からも支援します。
- ・J R長岡駅から寺泊港に至る各地域の連携強化とともに、豊富な地域資源を活かした観光ルートを創出するため、継続的なシャトルバスの運行を検討します。

#### ○計画的な土地利用の誘導

- ・雇用の場を創出し、定住人口の確保につなげていくため、必要に応じて適切な土地利用の誘導とともに、基盤整備を検討します。
- ・市街地や農村集落では、日常生活において身近な範囲内に買い物の場を確保し、高齢社会に対応した地域づくりを推進するため、土地利用の面からも適切な支援を行います。

- ・市街地や集落における空き家や空き地の有効活用などの仕組みづくりを検討します。

#### ○幹線道路及び生活道路の整備

- ・長岡地域の中心部と寺泊地域を結ぶ県道長岡寺泊線は、信濃川左岸バイパスの暫定ルートと位置付け、整備を促進します。
- ・地域の骨格となる国道116号については、合併した地域や隣接する市町村への連絡強化を図るため、大河津橋左岸の交差点部における交通混雑の解消など、道路環境の改善を図ります。
- ・「魚の市場通り」を通過する国道402号については、周辺の道路状況や交通の流れを考慮し、混雑解消に向けた対応を検討するとともに、観光客が安心して歩けるように、歩道の整備を促進します。
- ・県道渡部敦ヶ曾根線などの幹線道路については、道路拡幅等を促進します。
- ・通学路や身近な生活道路では、交通安全施設を設置するとともに、歩道の整備を推進します。

#### ○公共交通ネットワークの維持・充実

- ・寺泊地域とJR長岡駅を結ぶバス路線は、その運行を維持するとともに、運行時間の見直しやバス停の上屋整備など、バス交通の利用環境の向上を図ります。また、バス交通の空白地域においては、新たな交通手段の導入を図るため、住民が主体となった公共交通の検討や運営を支援します。

#### ○安全・安心な都市基盤の整備

- ・寺泊地区や野積地区の住宅密集地では、港町の街なみを活かしながら、緊急時に迅速に対応できる安全・安心で災害に強い「防災安全街区づくり<sup>\*</sup>」を目指します。  
※道路、公園、防火水槽などが計画的に整備された街区
- ・新島崎川のずい道整備や河川改修を促進するとともに、中小河川や用悪水路の整備を進めます。また、市街地や集落内の低地部などにおいては、道路側溝等の整備を推進します。
- ・大河津分水路の河道拡幅や堤防強化などの整備を促進します。

#### ○快適な生活環境を支える汚水処理施設の整備推進

- ・寺泊地域における汚水処理施設の整備を効率的に推進するため、汚水処理計画を見直しました。今後は、新たな処理計画に基づき、他の合併地域と同程度まで下水道の整備水準の向上を図ります。

#### ○自然環境の維持・保全と街なみ景観の活用

- ・恵まれた田園地帯や海岸域は、地域固有の自然資源であり、この豊かな自然が「トキ」の分散飼育に最適な環境です。今後とも、このような自然環境を維持・保全します。
- ・自然環境の面からも、農地や地域の家屋を守る防風林等について、今後とも維持・保全します。
- ・海岸部の街なみ景観は、地域固有の貴重な地域資源です。今後とも、港町らしい景観の保全や活用を検討します。

# 地域づくりの方針図 寺泊地域



土地利用		凡例	
	近隣型商業集積地		道路(現状)
	工業・業務集積地		主要幹線道路
	流通・業務地		都市内幹線道路
	レクリエーション交流地		道路(計画・整備を検討する路線)
	にぎわい住宅地		主要幹線道路
	うるおい住宅地		都市内幹線道路
	農村集落地		都市内幹線道路
	農地		都市内幹線道路
	山林・河川敷		都市内幹線道路
	公共公益施設		汚水処理区域
	河川		観光拠点
	汚水処理区域		地域界
	観光拠点		鉄道

地域づくりの方針図 (寺泊地域)